

長曰皆曰大同

A black and white micrograph showing a longitudinal section of a plant stem. The image highlights a large, central vascular cylinder composed of xylem and phloem tissues. The surrounding tissue appears more densely cellular.

東京教會
大國文學部
斗争會

すべての情勢を把握する言論

各軍に直ちに緊急準備を眞休^{ムツ}、備^ハを確立し、
臨戰体

〈渺茫の「回路」〉は、何時かの如く

上記の結果、条件がどうぞば、評議員と全學學生との話し合ひも考へられぬ

上記のためには廣接渉を以てとし 各学部代表教官と各学部
代表学生とを行なう。各学部ごとの接渉を主と、全学部の接渉
を行つ。

偽瞞的「回答」の文

④ 話し合いの内容は、『紛争解決について』である。
⑤ 以上は話し合ひのめぐら国交レギュラリイ。

学友諸君！一続してゆるよりに、これは大泉邸交を前提にして回復とはなり、一見「學生の要求をとり入れ、話し合いに応ずる」。ボーズをおせながらも、「紛争の解決について」「これは話し合ひどある。」と交えで口に。」の言葉でもわかるよう、これがはるか問題の根本的解決のためのものではなく、明らかに、我々の駆波移動阻止のせいへの真向からの敵対であり、「畢竟収拾」のための諒承衆動なのだ。

皆反論者！ 眞理に対するすべての幻想を頭を切取れ！

当局は、この回答を我々の前に提出することによって、又、話し合ひをすることが出来るので、我々學生の動向にサザリを入れ、彼ら當局の今更の「方針」のチミツバをはねるうとしているのだ。同時に、學生との「話し合ひを行なうたこ」と口実に、學生の意見は聞いたと云つ形で、我々が一四〇日間も要求し続けてきた大衆運動開催を回避しようとしているのだ。あの、過激者の數名を殺害にして戦われた、十月十四日校長毛眞吾行動におりて、即ちにモ、国民党力へ國民暴力團リ機動隊の手を借りてまで我々を排除したあの學長ト當局が、「話し合い」をするなどという態度は、まさに、我々の斗争への敵対^ハ體柔を意味してゐる。

ヘ文教授云の提案の犯罪性を徹底暴露する

——文教授云々り評議云々八提出された「事態収拾案」の犯罪的内容——

これは、学校当局の出している案とほぼ同じである。この一つは「撤歩」はりつたい向を意味するのである。さうなれば、当局が常に、ついにしたら收拾せざるのね」「どこまで譲歩しむら学生はウン」といふだろうかしと考へてみると明らかなる。ついに、現在の学生の斗いを崩壊させ、筑波移転推進にもと有利な条件を作り出していくための方略であり、懷柔策であり、スト破壊活動など。へ文教授云の「案」も又、彼らのツーキヤンバス論で学内をまとめる所とするものである。」我々学生がこの「案」に同意するならば、それが「筑波粉碎」は遠い空の彼方に消え去ってしまうであろう。

何をなすベギナム

筑波粉碎の勝利の展望は、徹底した実力斗争を背景にした、我々学生の、筑波粉碎の闘い意方に賛同された、当局との交渉を獲得することによつて語られる。それは、当局が、大衆団交に応じざるを得ないよつた状況を学内に作ることによつて、東の勝利を勝ち取ることばかり。我々の要求へり、10白紙撤回、筑波の全面的白紙戻天を前面に押し出し、我々の意志の画さを示すことによつて、当局の様々な笨動を實際に粉碎し、彼らを団交の場に引きさすり出すことこそ、筑波を守衛の彼方にようむり去る唯一の道なのだ。

筑波移転を様々なか形で笨動する大学当局を、我々が示した学長「回誓」に同意しよつとしている。そして、それを離じて、文教授云一当局の「收拾」案に同意しようとしている。しかし諸君! 我々が今明らかにしたゆくに、この「案」に同意することは、斗いの敗北を意味するといふことが、彼ら執行部諸君は一切からぬりのだ。自らの党派利害を優先する彼らである故、我々の訴えに首を振るとは思ひれまい。しかし、彼らがそうである故に我々は彼らに警告する。東派利害に埋没するものは自らの墓穴を掘ることになるのであることを。

化学部学生諸君に訴える。

裏切り者を放逐せよ! 大学当局と妥協するよつて執行部を粉碎せよ! 一時も待つてはいられない。

学友諸君! 更に我々は、や学部執行部諸君及び当局の提起してゐる「運営協議会」制についてと我々の見解を明らかにしたい。

現在、教授会・講座制を基礎とし、教授間の共同利害を維持するものとして存在する」と学生との間にほ、客観的に利害の対立が存在することは事実である。教授会は、大学教育へ政府・独占の教育政策に規定された)を直接に組織・管理するものとして存在し、政府・独占の意方に、教授会を通して現われる。教授会は、大学教育へ政府・独占と学生との間の矛盾は教授会と学生との間の矛盾として現われる。しかしこれは何も学生が、教授会の機能へ国家相対的に敵対するのではなく、教授会の機能へ国家意志に規定された)に敵対するのである。たゞる現在の學生一教授会の關係を把握するならば、①決定権を持つた全學協議会「なるものが次のような条件下でしか存在しないこと」が明らかになる。①教授と學生の間に、共通利益が、共通の意方に組みされた場合、②課題がほど重要なもとに組みされた場合、③協議を行なつた場合である。とするならば、教授会が解体され、再組織化され、いかない現時、時にて「全學協議会」を提起することは、全くの幻想であり、所詮、妄想、誤認、陳述、暴露、敵対の場面しかない。

全この学友諸君! 我々の斗いの前に誤りはあるではなうない。「全學協議会」提起の犯罪性をはつきりと認証せよ!

文教授云の「收拾」案

文教授云の「收拾」案に、庄倒的隊列で結集せよ!

スローガン	ジユール
19日	1時 偽謫的学長回誓 確約! 新たなる収 拾策動粉碎! 大衆 団交要求全學集会 2時半 全學斗争委員会
20日	一齊クラス討論
21日	斗争委員会 東大斗争の報告(事 業実績第一現局面一 総括)、討論
22日	主催 東大全共斗 場所 東大本郷講堂

11. 11. 22

全國学園斗争勝利総決起
集会に庄倒的隊列で結集せよ!
粉砕せよ! 謂にさる内2キ
ヤンバス

〈ワラ討資料〉
「大學の新たなる収拾
策動粉碎! 長青の安
協を許すな!」全學斗争

全曰学園斗争勝利!
日本大勢路線粉碎!
政府文部省の学園斗争に對
する介入粉碎!
斗争に勝利!